

特別展示 日本ジェイムズ・ジョイス協会

第18回全国大会開催記念

立教大学所蔵 ジェイムズ・ジョイス関連図書

於：人文科学系図書館

展示期間 2006年6月1日(木)～2006年6月20日(火)

山田 久美子(本学法学部教授)

ジェイムズ・ジョイス(1882-1941)は英国の植民地支配下にあったアイルランドの首都ダブリンに生まれ、22歳のときに故郷を離れて以来、短期間の帰国を除いて戻ることがなかった。以来、トリエステ、チューリッヒ、パリなどを転々としながら、ダブリンを舞台にした小説を書き続けた。作品の難解さで知られ、その革新的な文体により、宗主国の言語である英語を破壊したともいわれ、モダニズム文学を代表する小説家である。また祖国アイルランドの出版検閲や英米での発禁処分など、出版をめぐる苦難でも知られる。

日本では伊藤整、西脇順三郎らによって早くから紹介され、翻訳も出版されて、文学に多大な影響を与えた。本学では初版本をはじめジョイス作品、研究書を多数所蔵している。このたび日本ジェイムズ・ジョイス協会第18回全国大会が本学で開催されるのを機に、その中から12点を展示する。

1. Exiles : a play in three acts / by James Joyce. -- Egoist Press, 1921. 



『亡命者たち』
ジョイスが書いた戯曲のうち唯一現存するもの。
初版は1918年、ロンドンのGrant Richardsから出版。

2. James Joyce, his first forty years / by Herbert S. Gorman. -- Geoffrey Bles, 1926. 



『ジェイムズ・ジョイス—最初の四十年間』
ジョイスの協力を得て書かれた最初の伝記。イギリス初版。

3. Dubliners / by James Joyce ; introduction by Padraic Colum. -- The Modern library, [1926?]. 



『ダブリンの市民』
初版は1914年、ロンドンのGrant Richardsから出版。

4. Chamber music / by James Joyce. -- Cape, 1927. 



『室内楽』
ジョイスが書いた36の抒情詩からなる組曲詩集。初版は1907年、ロンドンのエルキン・マシューズより、ジョイスの著作として最初に出版された。

5. Our examination round his factification for incamination of Work in progress / by Samuel Beckett et al. ; with letters of protest by G. V. L. Slingsby and Vladimir Dixon. -- Faber and Faber, 1929.1930 



『「進行中の作品」なる宇宙内在的緊急呪文のための彼による虚構事実化をめぐる我らが誇張審理』
『フィネガンズ・ウェイク』について出版された最初の批評論集。サミュエル・ベケット他による12編の論文と2通の手紙からなる。初版。

6. Anna Livia Plurabelle : fragment of work in progress / by James Joyce. -- Faber & Faber, 1930. 



『アナ・リヴィア・プルーラベル』
『フィネガンズ・ウェイク』第一部第八章のタイトル、1927年に「トランジション」誌に連載されたものが後に小冊子として出版された。イギリス初版。

7. Ulysses / by James Joyce. -- Shakespeare and Co., 1930. 



『ユリシーズ』
ジョイスの代表作で20世紀文学の金字塔。ダブリンに住む三人の男女のある一日(1904年6月16日)の出来事を描いた長編小説。ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』(主人公の名前、英語名ユリシーズ)に対応している。初版は1922年。

8. 『若き日の藝術家の肖像』/ ジェイムズ・ジョイス原著; 小野松二, 横堀富雄譯. — 創元社, 1932. 



9. 『ユリシーズ』/ ジェイムズ・ジョイス著; 森田草平[ほか]訳. — 一〜二, 三〜四. — 岩波書店, 1932.2-1935.10. — (岩波文庫). 



10. 『一片詩集』/ ジェイムズ・ジョイス[著]; 北村千秋訳. — 椎の木社, 1933. 



11. Finnegans wake / James Joyce. -- Viking Press, 1939. 



『フィネガンズ・ウェイク』
ジョイス最後の作品。プロテウスのな夜の夢の世界ともいえる革新的な語りの文体で書かれている。初版。

12. 『愛蘭文學史』/ 勝田孝興著. — 生活社, 1943.8. 



著者はアイルランド文学研究者で、ジョイスに直接会った数少ない日本人の一人とされる。

(『ジェイムズ・ジョイス事典』(松柏社、1997年)他による)

